

2019年12月8日に中国の湖北省武漢市で発生が確認された新型コロナウイルスによる肺炎について、感染拡大による世界的な景気減速や株式市場の下落に関する懸念が高まっています。経済への影響を推測するのは難しいですが、過去のSARSの事例などを参考に、今後の見通し等について、まとめてみました。

## ●マーケットの注目点

### ・1月は日米中の主要株価指数が下落

2020年1月の株式市場は、中東情勢の緊迫化や新型肺炎の感染拡大懸念で、日米中の主要株価指数が下落しました。

(1月騰落率：日経平均株価▲1.91%、NYダウ▲0.99%、  
上海総合指数▲2.41%(春節前の1月23日まで))

### ・2月に入り上海総合指数は反発(2/18まで)

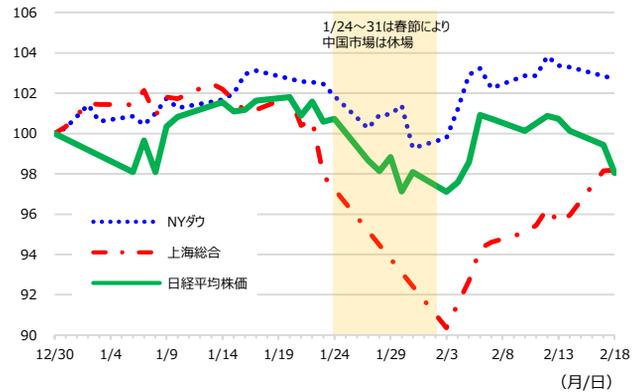
中国人民銀行(中央銀行)が春節明けの2/3～4の2日間で合計1.7兆元を金融市場に供給したことなどが好感され、上海総合指数は2/3を底に反発に転じました。

### ・国内景気への影響

中国人観光客の減少や、中国の内需悪化による日本の輸出の減少などが、国内景気の下押し材料となりそうです。

## ＜直近の日米中の主要株式指数推移＞

(期間：2019年12月30日～2020年2月18日)



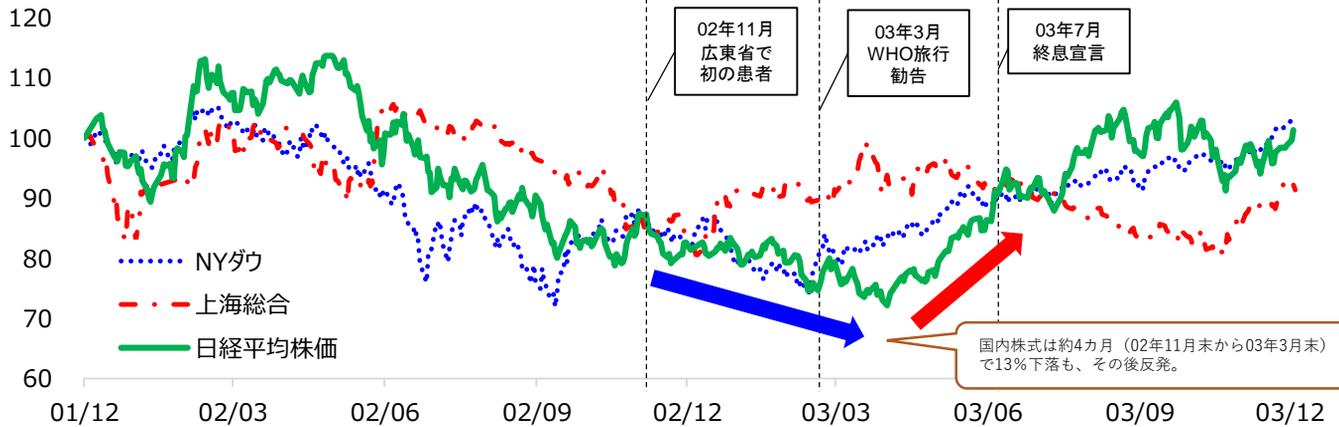
出所：ブルームバーグのデータを基にちばぎんアセットマネジメント株式会社作成  
※グラフは2019年12月30日を100として指数化したものです。

## ●SARS当時の振り返り

SARSは、初の患者が発生してから終息宣言が出されるまで一定の期間を要しました。当時の株価推移を見ると、日経平均株価はSARS発生(2002年11月)直後は4カ月ほど軟調に推移していましたが、2003年5月頃に患者数(累積感染者数-回復者数)がピークを迎え、感染の流行が収まる目途が立ち始めたところから、反発に転じていたことがわかります。

## ＜SARS前後における日米中の主要株式指数推移＞

(期間：2001年12月28日～2003年12月31日)



出所：ブルームバーグのデータを基にちばぎんアセットマネジメント株式会社作成 ※グラフは2001年12月28日を100として指数化したものです。

## ●今後の見通し

現時点では、新型肺炎の感染拡大が続いておりますが、感染拡大の抑制に向けアジアを中心に各国の対応が進んでいます。まだまだ予断を許しません。過去のSARSの事例を参考にすると、感染の流行が収まる目途が立つ頃には、株価が底入れする可能性があることを念頭に置いておいても良いのではないのでしょうか。

● 当資料はちばぎんアセットマネジメントが作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。  
● 本資料は、投資判断の参考となる情報提供のみを目的とした上記日時における当社の意見です。投資に関する最終決定は、お客様自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当社が信頼できると考える情報源から得た各種データなどに基づいてこの資料は作成されていますが、その情報の正確性および完全性について当社が保証するものではありません。加えて、この資料に記載された当社の意見ならびに予測は、予告なしに変更することがありますのでご注意ください。当資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、将来の市場環境の変動等により運用方針等が変更される場合があります。  
● 本資料に指数・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。